

CASBEE® 名古屋 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価 2016年版、名古屋市の建築物環境性能評価マニュアル(2016) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	フレア屋大通 新築工事	階数	地上12階
建設地	愛知県名古屋市東区泉一丁目2210番	構造	RC造
用途地域	市街化区域、防火地域	平均居住人員	82 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年2月 予定	評価の実施日	2026年8月1日
敷地面積	463 m ²	作成者	
建築面積	266 m ²	確認日	2026年8月3日
延床面積	2,712 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

The BEE Rank Chart plots Environmental Product Quality (環境品質 Q) on the y-axis (0 to 100) against Environmental Load (環境負荷 L) on the x-axis (0 to 100). The chart is divided into regions S, A, B+, B, and C. A green line represents the BEE = 0.8 threshold. A green triangle indicates the building's performance at BEE = 0.8, with a red '0.8' label. A red dot at the bottom right indicates a reference value at BEE = 0.48. The chart also shows a green line for BEE = 1.0 and a green line for BEE = 0.5.

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

The Life Cycle CO₂ Emissions Chart shows standard calculation results for five categories: ①参照値 (Reference Value), ②建築物の取組み (Building Measures), ③上記+②以外のオンサイト手法 (On-site measures above ②), and ④上記+オフサイト手法 (Off-site measures above ④). The x-axis represents CO₂ emissions in kg-CO₂/年・m² (0 to 138). The y-axis represents the percentage of reduction (100%, 96%, 96%, 96%).

項目	建設	修繕・更新・解体	運用	オンサイト	オフサイト	合計
①参照値						100%
②建築物の取組み						96%
③上記+②以外のオンサイト手法						96%
④上記+オフサイト手法						96%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

The Radar chart shows scores for six categories: Q1 室内環境 (Indoor Environment), Q2 サービス性能 (Service Performance), Q3 室外環境 (敷地内) (Outdoor Environment (On-site)), LR1 エネルギー (Energy), LR2 資源・マテリアル (Resources & Materials), and LR3 敷地外環境 (Off-site Environment). The scores are: Q1 3.2, Q2 3.1, Q3 1.3, LR1 3.4, LR2 2.8, and LR3 2.9.

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2

項目	スコア
音環境	3.0
温熱環境	3.1
光・視環境	3.0
空気質環境	3.9

Q2 サービス性能 Q2のスコア=3.1

項目	スコア
機能性	3.4
耐用性・信頼性	2.9
対応性・更新性	2.9

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア=1.3

項目	スコア
生物環境	1.0
まちなみ・景観	1.0
地域性・アメニティ	2.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.4

項目	スコア
建物外皮の断熱性能	4.0
自然エネルギー	2.0
設備システム効率化	3.6
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8

項目	スコア
水資源保護	2.2
非再生材料の使用削減	3.0
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

項目	スコア
地球温暖化への配慮	3.1
地域環境への配慮	2.5
周辺環境への配慮	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 LED照明・ノンフロン断熱材・節湯水栓を積極的に採用し、省エネ法を満たしている建築物です。		その他 特にありません。
Q1 室内環境 F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。	Q2 サービス性能 給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用したり、維持管理しやすい設計となっています。	Q3 室外環境（敷地内） 特にありません。
LR1 エネルギー LED照明や、玄関照明における人感センサーの採用など、一次エネルギー消費量を抑える対策をすることで、環境負荷への配慮をしています。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上げ材が容易に分別できる材料を使用しています。	LR3 敷地外環境 十分な駐車場・駐輪場を設けています。 また外部に漏れる照明について、点滅させたりしません。 広告物照明も設けません。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

フレア久屋大通 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.2



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。